

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100375		
法人名	有限会社 恵敬グループホーム		
事業所名	恵敬グループホーム		
所在地	三重県いなべ市北勢町垣内482番地2		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町提出日	平成26年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2472100375-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2472100375-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 1 月 14 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様を自分の親と思い、我が家で過ごすようなゆったりとした家庭的な雰囲気をめざしている。  
利用者はもちろん、ご家族とも密に連絡を取り、信頼関係を築き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藤原岳の麓で冬は比較的寒い地域であるが、事業所の小さな畑には青々とした葉っぱの大根が元気に育っている。民家改修型ではあるが、廊下は比較的広く、ゆったり感がある。「利用者は自分の親」という主旨の理念を職員全員が理解し日々の生活に活かされているので、利用者の顔も穏やかで、昼食時の雰囲気も少し人数が多いが楽しい会話の多い家族のような雰囲気であった。すぐ近くの小学校や保育園とは、運動会など行事ごとに招待を受けているし、夜間想定防災訓練には近所の住民の参加も得て、少しずつ地域に認められ連携も出来てきている。「1つの家族です」と自信もって話してくれた管理者や職員にかこまれた、あたたかい雰囲気の事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者を自分の親と思う」という事業所の理念を管理者は職場会議などで常に伝えている。	「利用者を自分の親と思う」という主旨の理念を設立以来12年間守り続けている。職場会議の中でも意見がまとまらない時は、「自分の親ならどうする？」と呼びかけ、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校や保育園の行事に招待してもらい交流を続けている。 避難訓練には自治会役員や交番のお巡りさんや近所の方々に参加して頂いている。	近隣とは日常的な散歩のときの挨拶や、避難訓練のような事業所の行事に参加してもらっている。また近くの小学校や保育園とは運動会を見に行ったりと交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や近隣への挨拶を欠かさず、認知症に対しての理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果や日々の活動、利用者の状況を報告している。 地域の理解を得ることが難しいが、今後の在り方を考えていきたい。	5月の防災訓練のときは地域の自治会や行政の参加もあったが、普段は地域や家族の参加も得難く、会議の開催も年2～3回にとどまっている。	事業所の取り組み状況を地域に理解してもらうのが主旨であり、誰もが参加しやすいテーマで開催されることを期待する。地域を良く知る民生委員の協力を得る等の取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域支援センターや社会福祉協議会に事業所の状況を伝えたり、研修に参加している。	代表や介護支援専門員が認定更新や空き情報等、事業所の情報を報告に出向いている。研修等の情報はすべて連絡をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はなぜいけないのかを職場会議の場で確認し、利用者の気持ちを考えるようにしている。	現状としては身体拘束はないが、毎月の会議で事例を挙げ職員みんなで話し合っている。日常の「立たないで…」の言葉も、拘束に当たるのでは？と、身体だけでなく心の拘束についても検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修では、自分たちの介護を振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用している利用者はいないが、法制度を学ぶ必要性は感じている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面に沿って利用者や家族に説明し、納得して頂いてから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から管理者が電話で家族と連絡を取り合っている。 面会時には必ず職員が日頃の様子などを伝えると同時に、ご家族の話も聞いている。	家族会や面会時、電話連絡のときに家族と話しているが意見・要望は少ない。日常の様子や健康状態を書いた「月報」や「愛の架け橋だより」も家族に送り、意見・要望を引き出す工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回程度職場会議があり、職員の意見を出し合い話し合っている。 また、個別でも管理者や主任が職員からの意見・提案を聞き取っている。	職員には食材、日用品、利用者の衣服等の各種の担当があり、毎月の職場会議で意見交換しているし、会議以外でも管理者は職員意見の吸い上げに努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の職員と面接を行っている。 勤務体制は、できるだけ個々の都合を配慮し調整して、働きやすい職場をめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を業務と認め、研修に必要な費用を出している。 職場会議の場を利用して、勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス協議会に入っており、情報交換を行っている。 社会福祉協議会、地域包括支援センターが主催する研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と介護支援専門員が本人と面接して、話を傾聴し、不安が軽減されるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き、管理者が理念を説明しながら、ご家族の意向や不安が解消されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャー、病院の相談員等から情報を得ながら、何でもご家族と話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が入居者と一緒になって掃除をしたり、歌を唄ったり、テレビを見たりすることにより、家族のような関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人の面会時間を制限せず、職員は、本人の様子を伝えるだけでなく、家族の話も傾聴し、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴を大切に、昔話や地元の話も職員と一緒に会話をしている。	自分の元の家を訪問したり、家族に来てもらったの外出や馴染みの美容院の送迎もある。しかし年々外出よりも、昔の仕事や家を支えてきたことの「昔話」をするのが多くなってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性の善し悪しを職員が把握し、トラブルになる前に座席の変更をしたり、間に入ったりして援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に電話で近況を尋ねたり、入院先を訪問して、相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の話聞き、意向の把握に努めている。 意向の表出が困難な場合には、表情やこれまでの生活歴などから汲み取るようにしている。	一人暮らしだった人は、したい事は全て自分でやってきたし、自分で役割を見つけてきているので、希望や意向を言わない利用者が多い。利用者がゆっくり座っている時に「私にそっと話して…」と話しかけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にこれまでの暮らしを教えてもらっている。 入居前ケアマネージャーや病院相談員に聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に会話したり、一緒に掃除や洗濯物たたみなどをする中で、心身状態や有する能力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議で、現在の課題について話し合っ対応を考えている。介護計画書は、職員全員が目を通して。 3か月毎にご家族に介護状況を記載したモニタリング結果を送付して報告している。	利用者ごとの課題分析シートをつくり、職員会議で全員で検討、家族の意見を反映し計画書を作成している。3ヶ月毎にモニタリングし、家族のサインをもらい変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のようすは個別の日誌に記録し、職員間で周知が必要なことは、申し送りノートに記入して、情報の共有を図っている。 職場会議で計画の見直しや介護の工夫を話し合い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡を取りながら、その時々合ったサービスを考えている。 ご家族の都合を考え、通院介助や身の回りの物の買い物を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校や保育園と交流している。地域のお巡りさんに避難訓練に参加してもらったりして顔なじみになっている。地域の理容院に出張してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所のかかりつけ医が往診や夜間や緊急時の対応をしてくれる。電話で状況を報告して相談にも対応してくれる関係を築いている。	一人を除く8人が協力医をかかりつけ医としている。電話での相談や往診もあり、緊急時は夜間でも対応してもらえる。歯の方は月1回歯科衛生士の訪問があり、個別指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職はいないが、小さなことでも近所のかかりつけ医に相談できる状況にはなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時はかかりつけ医からの紹介状をもらい情報提供をしている。入院中は面会に行き、状況把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての事業所の方針を説明している。状況悪化していく段階で、かかりつけ医やご家族と相談しながら、事業所としてできる限りの事を支援している。	看取りに関する指針があり、かかりつけ医と相談しながら、出来るところまで支援することになっているが、最近では重度化レベルの重い方の支援も要求されるようになり、事業所としての受け入れの見直しを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受けて、応急手当の訓練を受けている。職場会議において、緊急時の対応を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署、近隣の住民の方にも参加してもらい、夜間想定での避難訓練を行っている。その他にも地震や昼間火災想定での避難訓練を行っている。	5月に消防署の立会いの下、近隣や運営推進会議メンバーの参加を得て夜間想定での火災・避難訓練を行った。夜勤職員1人では大変なので、可能なら駆けつけた近隣の方々の誘導をいただく等、貴重な意見をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を自分の家族、自分の行く道と考え、一人一人を大切に介護している。事業所の理念を職場会議で確認して、人格を尊重する介護を目指している。	ここにいてよかったと思っただけのように、常に理念の「自分の親」を念頭に支援している。トイレ時のしぐさでの気づき、優しい言葉掛けに注意し、利用者のトイレの中の様子は直接見るのではなく、ミラーで角度を変えて見るように気遣っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家庭的な話しやすい雰囲気づくりに努め、個々にゆっくり関わる時間を取り、本人の希望や思いが表出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどの参加は無理強いせず、本人の意思に任せている。 自室でも共有スペースでも好きな場所で、自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日化粧している人もいる。 自分の行きたい時に理容院に外出する人もある。 白髪を気にする人は、毛染めを援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が季節感を考え食事を提供し、会話を楽しみながら食事を摂っている。 体力が弱ってきている入居者も安易にミキサー食にせず、食べられる料理を一品ずつ柔らかくしている。	食材は管理者が一括して購入し、職員は一般の家庭のように冷蔵庫の中にあるもので、利用者と「なにつくろ？」と相談しながら調理している。利用者の皆さんが食べやすいように、肉・魚・野菜をバランスよくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせて、食事の形態を変えている。 水分補給は無理強いせず、本人の飲みたいときに飲みたいものを摂取できるように考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士による個別指導を受けながら、一人一人に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の訴えがない利用者も、立位が可能な限り、排泄パターンに合わせてトイレに誘導している。 トイレが排泄する場所であることが認識できなくても、衣類の上げ下ろしなど手伝い、なるべくトイレを使用して頂いている。	トイレでの排泄に努力しており、尿意のある人はもちろん、ない人にも時間を見て誘導している。立位の取れる人は、リハビリでトイレ排泄の自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食べ物や水分摂取を心がけている。 排便を促すために腹部をマッサージすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ずつ入浴し、入浴の長さや温度は出来る限り本人の好みに沿うようにしている。 入浴拒否がある時は、無理強いせず、その人が入りたい気持ちになった時に入浴して頂く。	入浴回数は、この時期は週2回程度で、出来るだけゆっくりと入浴時間をとっている。入浴拒否はそれ程強くないので、無理強いせず気分が変わったら入っていただくようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は、それぞれの好きなように、好きな場所で過ごして頂いている。 夜間は、それぞれの睡眠パターンをつかみ、不安がある人には添い寝をする時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬について種類、効用、服用時間をまとめたファイルを設置してある。 3名で服薬確認を行い、間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみなど出来ることをできる範囲で手伝ってもらい、自分の役割をして誇りをもってもらう。 歌やゲームは、職員も一緒に行い一緒に楽しむようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態もあり、全員揃っての外出は困難になってきたが、個別での外出希望があれば、支援している。 外出しやすい季節になったら、行事を考えていきたい。	冬の時期は寒いので散歩も少なくなっているが、買い物や外出の希望があれば、職員や家族の協力を得て個別対応している。暖かくなれば、季節の花見やお祭りなどへの参加の計画がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理して宅配牛乳を取っている人もある。 被害妄想が出ることが多いので、家族が管理していることを伝え、安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合や時間を聞いておき、その範囲で本人が掛けたい時に好きなようにかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家屋を利用しているので、自宅に近い雰囲気がある。 手書きの絵や写真で温かい雰囲気を作るようにしている。	台所につながった居間兼食堂が、利用者の皆が一番集まる場所になっている。広さ的な空間と調理の音や臭いが、一般家庭と同じ雰囲気を感じさせている。壁には行事の写真が見て楽しくなるようなレイアウトで貼り付けてあり、全体的に温かさを感じる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにも椅子やソファを設置し、好きな時に好きな場所で過ごしている。 気の合う人と椅子を寄せて、ひなたぼっこする姿がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、お気に入りの人形を置いたりしている。 入居時に自室になじみの物を持ってきてもらうことができることを伝えている。	ぬいぐるみの犬や人形が飾ってあるし、写真やカレンダーが貼ってある部屋もあるが、比較的シンプルに片付いた部屋が多い。居室は”寝るところ”であり、利用者皆が温かそうな寝具である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、個室は、わかりやすい表示にしている。 時間が気になる利用者には自室に時計を置いている。		